

平成30年度 豊明市地域包括ケア連絡協議会

日 時 平成30年10月3日(水) 14時～

場 所 豊明市役所1階 会議室6

1 あいさつ

2 議 題

(1) 地域包括ケア構築に向けた取り組みについて(資料1、資料2)

(2) 各委員(団体)からの報告(資料3)

(3) その他

資料確認

1. あいさつ (健康福祉部長)

2. 議題

(1) 地域包括ケア構築に向けた取り組みについて<健康長寿課長>

- ・H30～第7期計画「あるものをより邁進していく」形で作成。
- ・国からも、保険者機能強化（インセンティブ機能）が出されたが、豊明市では、現在行っていることを粛々と実行することで目標は達成できると思われる。
- ・H30～市町村特別給付を開始。栄養改善、おむつ支給、一時保護事業、H31～は移送事業も開始予定。その他、成人のヘルスケア部門と一体的に行うための組織改編を行った。
- ・計画 P9 の要介護認定率の推移について、女性の認定率が下がっていることが特徴的。
- ・豊明市の人口ピラミッドについて、今後来るであろう人口ピラミッドの山をどう乗り越えていくのか。現在の介護サービスだけではなく、保険外サービス等幅広く高齢者を支える仕組みづくりを考えていきたい。現在メディア等でも取り上げられている1つとして「チョイソコ」がある。創生推進室と連携し、アイシン精機とスギ薬局の協力のもと、乗り合い移送サービスをスタートさせた（別紙資料参照）。
- ・今後も「ふつうに暮らせるしあわせ」を理念とした地域づくりを行っていきたい。

質疑応答

牧委員：インセンティブの金額は、どう利用するのか？

→インセンティブは介護事業の中で活用することとなっている。

部会長：女性の介護認定率が下がっているという背景をデータとして裏付けするとよいと考える。

武地委員：チョイソコの状況はどうか

→登録が現在 150 人程度。今後も、新たな「出かける意欲」を作り出す仕掛けをしていきたい。

(2) 各委員（団体）からの報告

資料3-1：介護支援専門員連絡協議会（伊藤委員）

資料3-2：リハビリテーション連絡協議会（野々山委員）

資料3-3：看護連絡協議会（小島委員）

資料3-4：豊明市ソーシャルワーカー連絡協議会（南部地域包括支援センター）

平成29年発足。88名の会員と地域の福祉について考えていきたい

資料3-5：豊明東郷医療介護サポートセンター「かけはし」（かけはし）

退院支援等、関係機関と連携しながら活動をしていく

資料3-6：初期集中支援チーム（南部包括支援センター）

チーム員の訪問は1回。より細やかな訪問支援も検討していきたい。

資料3-7：生活支援コーディネーター（社会福祉協議会）

第1層「ふつうにくらせるまちづくり」を目指している。

福祉委員会の立ち上げ支援（地域で生活していく上での課題を吸い上げ、地域の課題として考えていく場）

質疑応答

嘉戸委員：生活支援コーディネーターへの質問。解決する場としての保険外サービスにて冊子を作成したり情報提供をしているか

社会福祉協議会（森）：冊子としてはまとめていない

嘉戸委員：多職種カンファレンスなどで保険外サービスの話が出るが、ケアマネ等は知らないことが多い。基本情報としてまとめるなどしておくとのよいのでは。

武地委員：生活支援コーディネーターは「ちゃっと」とどう連携しているのか

社会福祉協議会（森）：地域の困りごとを「ちゃっと」に伝える等している。

牧委員：「ちゃっと」の活動などを医師も知らないことも多い。広報活動をしてほしい。

部会長：部会の委員が知らないということは、市民も知らない。周知はしすぎることはない。

部会長：また、各協議会の方の活動が介護保険計画のどこを目指しているか、きちんと明確にしておくとのよい。できることなら1つの表としてみえる化しておく、各協議会・市が一体となって活動できる。

事務局：参考にします。

都築委員：認知症初期集中について。「市民や家族からの相談は認知症の進行具合が高い」等の内訳や内情があれば教えてほしい。

南部：「初期集中に相談したい」と直接相談が来るといふより、漠然とした相談の中から、事務局がふるい分け、初期集中支援チームが介入していくことが多い。今後、具体的に分析していきたい。

都築委員：認知症に対する理解促進と一緒に関わることが出来たら協力したい。また、発見した人がオレジンリングを持っているか等のデータをとることも検討するとよいのではないか。

(3) その他

事務局より：議事録については確認後、ホームページへ掲載を予定している。

以上